

【昇降ステップ】
写真は小型で滑り止め模様が特殊なタイプ。p.3の正面のものと見比べて欲しい。(7913海側)

昇降ステップ、梯子

各車下り方は海側、上り方は山側に5段設けられている。正面と同じくリングの大きさには大小2種類が存在する。

海側でリングの小さいタイプは7802、7805～7808、7812～7815、7912～7914の9両で、このうち7808と7913は上部の滑り止め模様が他車と異なる。山側は全車両が大きいタイプだが、7710、7810以外は台座部分を少し盛り上げて設置されている。

設置間隔は正面と同じく、種車が7000系1次車の7710、7810、7910は他車より1cmほど狭い。

転落防止装置が設置された7715、7815、7915は連結面のステップが撤去され(ただし7815は下り方海側の最下部のみ残っている)、金属片により塞がれている。代わりに7815の下り方海側には梯子が設けられた。

【電気配管と幌枠】

(左)7000系1次車は配管の位置関係が逆。幌枠の上部覆いは3次車まで小型。側板は長い。(7810) / (中央)4次車から上部覆いが大型になった。側板は6次車から短くなった。(7805) / (右)サハ7950形を電装化した車両は幌枠に手を加えず配管を通してしている。(7715)

また、種車が7000系1次車の7710、7810は旧6000系と同じく、片側2本のうち高圧電線が内側に配置されているが、その他の車両は逆に外側となっている。

幌枠

幌枠の上部には金属製の覆いがある。集電装置からの配管が降りるデハ7700形、デハ7800形の上り方の形状は、種車が7000系3次車以前の車両(7708、7710、7808、7810)は配管なしの箇所と同じで、配管が通る部分が切り抜かれている。種車が4次車以降の車両は幌との接合部までを覆う大型のものであり、配管部分には穴が開けられている。

配管を収めている幌枠の側部には、前述のとおり金属板が留められている。種車が7000系5次車以前の7703、7708、7710、7713、7803、7808、7810は上部の覆い部分まで延びているが、6次車以降は若干短くなった。

7715、7815はサハ7950形時代のままである。

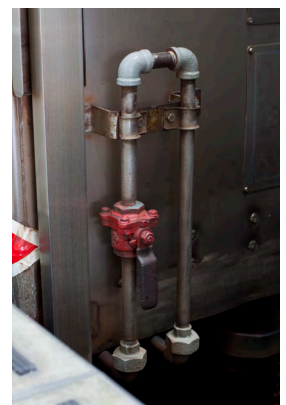
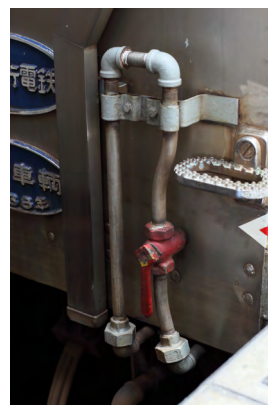
Dコック管

先頭車は連結面、デハ7800形は上り方妻面の海側、山側それぞれに設置されているが、サハ7950形から改造された7815は下り方にある。このうちデハ7700形とデハ7800形(7815以外)の山側、クハ7900形の海側は昇降ステップに支障する部分が折れ曲がっており、コック位置(赤色塗装が施された部分)も若干低い位置となっている。7815の下り方海側も昇降ステップがあるが、折れ曲がっていない。

7715、7815、7915はコックまわりの形状が他車と異なり、2000系や1000系5次車、7600系室内更新車などと同じタイプとなっている。

雨樋

初期に7700系化改造された7701、7702、7801、7803、7901、7902は縦樋が円筒形をしているが、その後の改造車は角形の金属製となった。



【Dコック管】
(左)通常のタイプ。写真は昇降ステップのある場所に設置されたもので、折れ曲がっている。(7713上り方山側) / (右)7915Fの新型タイプ。(7715上り方海側)